

稀少な淡水魚「ニッポンバラタナゴ」の保全



自然・環境マネジメント研究部 生態研究グループ

高橋 鉄美

ニッポンバラタナゴとは？ ニッポンバラタナゴは、日本に固有なコイ科の淡水魚です。この小魚は、かつては西日本の多くの川で見ることができました。しかし、1940年代に近縁なタイリクバラタナゴが中国から入ってきて、交雑するようになりました。その結果、現在では九州を除く地域のすべての川から、純粋な個体がいなくなりました。このため環境省レッドリストでは、もっとも絶滅のリスクが高い絶滅危惧IAに指定されています。

兵庫県のニッポンバラタナゴ 兵庫県でも、川ではタイリクバラタナゴが交雑個体しか見つからないので、もはや純粋なニッポンバラタナゴは絶滅してしまったのでは、と考えられていました。ところが近年、神戸市や近辺のある「ため池」から、ニッポンバラタナゴと思われる個体が採集されました。

遺伝子調査 ニッポンバラタナゴとタイリクバラタナゴは外見が似ているため、正確に見分けるには遺伝子を調べる必要があります。そこで核DNAを調べ、神戸市や近辺の個体群が、ほぼ純粋なニッポンバラタナゴであることが判明しました。このような個体がかつともとの自然環境ではなく、人工的な「ため池」のみに生き残っていたことは、皮肉ですね。

保全の取り組み 神戸市大沢町では、ニッポンバラタナゴを自然豊かな地域の象徴として、農産品のアピールを行い、地域活性化に役立てようとしています。このように、ステークホルダーに利益をもたらそうとする試みは、継続的な保全を行う上で、とても重要です。



ニッポンバラタナゴをイメージした大沢町のマスコット「バラタン」

ニッポンバラタナゴとタイリクバラタナゴの実物標本は、下のガラスケースをご覧ください。

